



研究用試薬

## ヒストファイブ

第一抗体

SV2-61  $\gamma$ 

(動物種: マウス)

包装: 1mL (未希釈抗体)

Code: 413431

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地 6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

■特異性および抗原分布: gp185 のヒト *c-erbB-2* 遺伝子産物(HER2)の細胞外ドメインと特異的に反応し、gp170 の EGF レセプターとは反応しない。ヒト *c-erbB-2* 遺伝子導入細胞の SV11、SV227、A415 と反応し、また、ヒト培養細胞株では胃癌由来の MKN7、組織では、腺癌、特に乳癌あるいは胃癌の一部と強く反応する。ただし、正常の腺組織とも弱く反応する。

■クローン名: SV2-61  $\gamma$

■抗体のサブクラス: マウス IgG1

■製法: ①免疫原・・・マウス繊維芽細胞由来 NIH/3T3 にヒト *c-erbB-2* 遺伝子の全長を導入して得た細胞培養株(SV11)。

②免疫法・・・SV11 で免疫した Balb/c マウスの脾細胞とマウスミエローマ細胞 P3X63Ag8.653 との融合細胞(ハイブリドーマ)から抗体産生クローンを得ている。

■精製法: ハイブリドーマの培養上清より、プロテイン A アフィニティークロマトグラフィーを用いて精製して得ている。

## 1. 内容

第一抗体・・・抗ヒト *c-erbB-2* 遺伝子産物モノクローナル抗体 SV2-61  $\gamma$  (動物種: マウス)

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と 0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)中に溶解された状態である。

1 バイアル中に未希釈抗体 1mL を含む。

## 2. 使用目的

組織・細胞中のヒト *c-erbB-2* 遺伝子産物の染色。

## \*3. 使用方法

パラフィン包埋切片の免疫組織化学染色、免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。

パラフィン包埋切片の場合、抗体希釈用緩衝液(例0.1%BSA、0.1%Na<sub>3</sub>Nを含むPBS)を用いて20-40倍に希釈する。前処理(抗原賦活化)としてヒストファイブ プロテアーゼ溶液(Code: 415231)を用いて5-15分間(25°C)の酵素処理が必要である。

スライド上の組織切片が完全に覆われるように第一抗体を2滴(100  $\mu$  L)滴下し、常温(15-25°C)で30分~1時間インキュベートする。\*

この反応時間は、ヒストファイブ シンプルステインMAX-PO(M)を使用する場合の目安であり、他のキットを使用する場合は、研究者自身が至適反応時間を調べる必要がある。

\*■参考: 組織の固定状況等によりヒストファイブ プロテアーゼ溶液(Code: 415231)を50mMトリス緩衝液(pH7.6)で2-3倍に希釈すると良好な染色が得られる場合がある。また、ヒストファイブ プロテアーゼ溶液(Code: 415231)の代わりに、ヒストファイブ トリプシン溶液(Code: 415101)にて5-15分間(37°C)処理することで良好な染色が得られる場合がある。固定時間の短い培養細胞などは、トリプシン処理の方が良好な場合がある。\*

## \*\*4. 貯法および使用上の注意

1. 2-8°C保存。

2. 長期保存する場合は、頻回の凍結融解を避けるために小分け分注して冷凍保存(-20°C以下)すること。

3. 使用前に室温に戻すこと。

4. 使用後は速やかに冷蔵保存すること。

5. 異なるロットの試薬や他製品の試薬を混ぜたりしないこと。

## **\*\*5. 取扱上(危険防止)の注意**

1. 本製品に関する安全情報は安全データシートを参照すること。
2. 本品を吸い込んだり、眼、口、皮膚、衣類などへの接触を避けること。
3. 本製品の廃棄の際には、各施設や地域および国のルールに従い、適切に廃棄すること。
4. 本品は、動物由来成分を含むので、取扱に注意が必要である。
5. アジ化ナトリウムは有毒化学薬品である。本製品の含有量は危険なものとして分類されないが、蓄積されたアジ化ナトリウムは爆発性の金属アジ化物として形成され、水道管に含まれる銅、鉛と反応する可能性がある。そのようなリスクを避けるために大量の水とともに洗い流すこと。
6. ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織（細胞）化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

## **6. 主要文献**

- (1) Masuko,T.,et al. : Jpn. J. Cancer Res. 80, 10-14, 1989
- (2) 菅原邦夫 他：第 47 回日本癌学会総会記事, 219, 1988
- (3) Kitano,Y.,et al. : Appl Immunohistochem Mol Morphol.2007 15:389-93.

■研究用としてのみ使用すること。